

令和5年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣官房長官賞受賞

## 町内小学校と取り組む 地域の課題解決型プロジェクト

福井県高浜町 高濱明日研究所（たかはまあしたけんきゅうじよ）

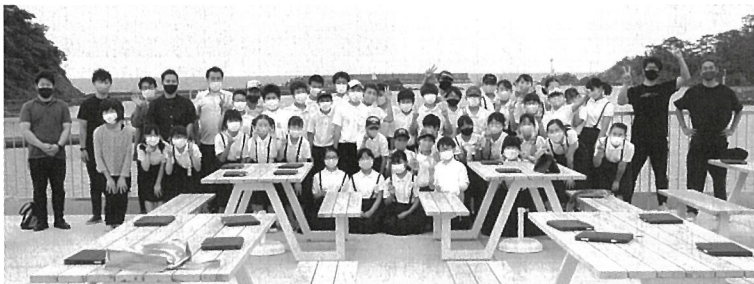
### 1. 高濱明日研究所の誕生

高浜町立高浜小学校と推し進める「コドモノ明日研究所」プロジェクト活動を紹介するにあたり、高濱明日研究所の誕生について説明します。高濱明日研究所は、福井県高浜町（人口約1万人）の有志団体です。メンバーは高浜町内16名・町外2名・県外15名（男性25名・女性8名）の33名（平均年齢30・6歳）で構成しており、『明日あったらいいなを考える』を活動目的とするプロジェクト集団です。

設立の背景は、福井県高浜町がアジアで初めて取得した海の国際認証「BLUE FLAG（ブルーフラッグ）」を広報PRするためにスタートした、関西圏の建築学生による海の家を企画・運営するというプロジェクト（自

治体のプロジェクト

2016年スタート）。このプロジェクトで一夏、高浜町内に数十名の大学生が入りすることとなり、宿泊拠点となったのが高浜町塩土地区という漁村。漁村地区の建築や街並みが「面白い」と感じた学生たちは、「こんなことをすれば」ということを塩土



ウニランプを開発した2期生 集合写真

地区の若手に提案しました。

そこで「本当に面白いことができる町なのかも：」「こうやって外から関わってくれる人（いわゆる関係人口）をもっと増やしたい：」と思い、高浜町の若手と県外の学生などによる数名で「高濱明日研究所」が立ち上がりました。

プロジェクトコンセプトは、

□再発見、再利用、再構築（基本的に0から新しいものは作らない）

□明日あったらいいな という想いから生まれたもの

メンバーは、漁師、農生産者、酒屋、設計士、水産加工場、左官屋、地域おこし協力隊、商工会、様々な職業を本業とする有志メンバーであることが強みとなり、プロジェクトをス



ピーディに遂行できています。今回、紹介する「コドモノ明日研究所」は、高濱明日研究所のプロジェクトの一つです。

## 2. コドモノ明日研究所誕生

2020年3月に新型コロナの感染拡大防止のため、国内の全ての学校が一斉休校となりました。休校要請期間が終了した後は、新しい生活様式での生活のスタート。地域との交流が絶たれた現状に悩みをもつ高濱小学校から、「子どもたちが地域のために一緒に何かできる活動はありませんか？」と相談がありました。それが、「コドモノ明日研究所」が誕生するきっかけとなりました。

## 3. 1期生誕生(若狭ふじのゼリタルト)

2021年11月、コドモノ明日研究所はじめての授業。「みんなが住んでいる高濱町は、2040年に無くなっている可能性がある」高濱町が消滅可能性都市に該当していることを子どもたちに伝えました。

「みんな高濱町が無くなってほしくないでしょ？ボクたちもそう思っています。だからボクたちは明日あったらいいなっていう、たのしいモノやコトを研究しています」「今日、高濱小学校に来た理由は、困っている人を助



1期生が開発した 若狭ふじ (ぶどうブランド名) のゼリタルト

ける協力をしてほしいからです。困っているのは、高濱のブドウ農家さんです。「若狭ふじ」という高級ブドウの果汁が大量に余っていて、廃棄されてしまうかもしれないのです。どうかできないか」

入所を終えた高濱小学校6年生39人のコドモたちは、さっそくブドウ果汁を試飲。たくさんの方が飛びかいました。八つのグループで「若狭ふじ」をつかった商品アイデアを考え、プレゼン大会に臨むコトができました。

どの班も、①自分たちが作ろうと思ったきっかけ、②つくる商品とその理由、③どのような人を買ってほしいか、④この商品でどのようないいことが期待できるか、⑤商品名の5点を意識して、スライドを用いてプレゼンを行いました。プレゼン大会後は投票を行い、得票数の多かったアイデアが採用されます。結果、採用されたのは「若狭ふじのゼリタルト」でした。商品化された若狭ふじのゼリタルトは現在、小学校近くの洋菓子店で販売中です。

## 4. 2期生誕生 (UNIKARA)

2022年6月、近年の高濱近海の現状について、漁師をしている高濱明日研究所のメンバーから話をしました。「美しく豊かな魚介類に恵まれているはずの藻場が今、大量のウニによって食べつくされようとしています。その藻場を守るためにボクたち漁師は去年は2万匹のウニを駆除しました。そんな駆除されてしまうムラサキウニの利活用方法をコドモの柔らかい頭で考えてほしい」

昨年の1期生のプレゼンや商品が完成していく様子を見ていた新6年生たち。子どもたちは待ってました！とばかりの反応。入所願書を書き込み、コドモノ明日研究所2期生(6



知事・町長の前で実施したプレゼン大会



年生42人)が1期生の想いを引き継ぎスタートしました。実物とウニの中身を確認した後、コドモたちは九つの班に分かれ、ウニの利活用案を考え始めました。

プレゼン大会は、校内では児童に、そして高浜公民館では地域住民に2会場で行いました。高浜公民館でのプレゼンには、福井県知事も駆けつけてコドモたちもビックリ!プレゼン大会に参加していない地域の方にも投票してもらうために、コドモたちのプレゼン動画を見て投票できる場所を高浜公民館に1ヶ月ほど設置しました。

コドモノ明日研究所2期生が今後取り組んでいく商品は、ウニランプのUNIKARAに決定し今後の方向性の話をしました。

「UNIKARAを商品化して売れるところまでもっていきます。いまから2期生のグループを再編します!」

【デザインチーム】「製造チーム」「営業チーム」「広報チーム」自分の能力が活かせるような部署をコドモたちに選んでもらい、各チームに所属してもらいました。

【デザインチーム】商品のパッケージデザインやUNIKARAのロゴを担当。ここで誕生したのがUNIKARAのロゴマークです。また、営業チームからUNIKARAをガチャガチャで売るという案が出てからは、ガチャカプセルの中

に入れる帯や、ガチャマシーン前面パネルに入れる表紙などをデザインしました。

【製造チーム】ムラサキウニの殻はパフウニなどと比べると殻の色が黒っぽく、光の透過性が悪いことに気づきます。試行錯誤をくり返し、殻にサンポールをかけると殻がとけて光が通りやすくなることを発見。そして、UNIKARA A 大ランプ、中ランプ、小ランプを製作していきました。

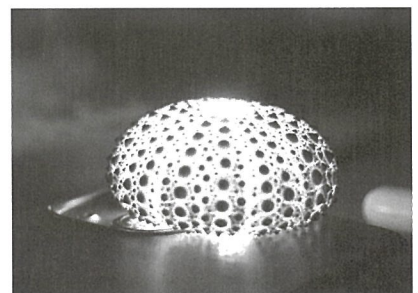
【営業チーム】「UNIKARAをいくらで売るのがか」「どこで売ってもらうのか」「売ってもらうためにどうやってお願いするのか」を担当しました。販売してほしい場所へ販売依頼の文書を作成したり、ガチャガチャで販売する方法も、この部署からの提案。大人では思いつかない方法・・・コドモのアイデアはすごいです。

【広報チーム】UNIKARA誕生までをマンガにしたり、POPを作ったりと、各部署と連携しながら情報をそれぞれ1枚の用紙にまとめていきました。

3月11日、商品発表会を開催し、全校、そしてメディアに対して完成したUNIKARA A3種類を報告できました。しかし、この1週間後に2期生は卒業式を迎えることに

なり、UNIKARAの製作個数の数も目標にまだ達していません。

そこで、卒業後「UNIKARA A」を作ろうの会を開き、高濱明日研究所の基地でUNIKARAづくりを実施。「3期生はこの活動を引き継いでほしい」という想いと3期生へのメッセージを残し、2期生の活動は終了しました。



初代ウニランプ

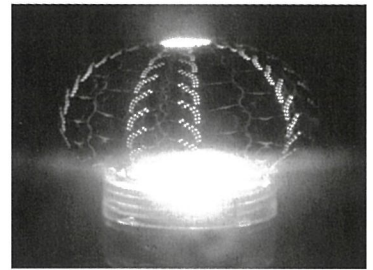
## 5. 3期生(レモンだモン・紫染ノ屋)

### 4期生 (UNIKARA 2nd) の誕生

2023年5月。集まった6年生と5年生が見たのは、2期生からの熱い想いが語られた動画メッセージ。コドモノ明日研究所3期生(6年生)4期生(5年生)の誕生です。  
(\*この年から2学年で実施)導入は同じく2040年問題。高浜町を残したい。そのために、目標をつくろう!という6年生からのアイデア。そして、高小SDGsが生まれました。八つの行動目標で構成されることになったことを、全校児童の前で発表しました。

このSDGsを基に、6年生は高浜町の課題を新たに発見し、解決していく取り組みに挑戦していくこと。5年生は、昨年生まれたUNIKARAの活動を継続していくことが決まりました。

5年生（4期生）には以下の通り説明しました。「商品は話題となっていて売れています。けれど、そもそもは、高浜の海を守るために開発した商品です。1回きりで活動が終了するのはもったいない。継続が大切です。けれど課題も見えてきました。その課題を解決しながら、みんなの柔軟な頭を使って、今あるUNIKARAをさらにバージョンアップして、3期生版『UNIKARA 2nd Generations』を作ってみませんか？」すると、UNIKARA 2nd Generationsではお風呂でも使える防水バージョンなどが生まれました。



2代目ウニランブ（防水バージョン）

聞・ラジオ・テレレビと各メディアに取り上げられました。継続的な取り組みは大きな反響をよび、NHKの全国放送やワールドニュース（世界）で放送されることで、様々な人とながることができました。アスケンや学校にメッセージが届く度に、コドモたちに紹介していました。



3期生が開発した内浦レモンのレモンだモン（レモンゼリー）

## 7. UNIKARAを超えるモノを！

新小SDGsの「再利用」「観光」というテーマから新たに生まれた、3期生の新商品。地元レモンを有名にして、観光客を増やす！「レモンだモン」。そして、薬草栽培時に捨てられているという「紫蘇の葉っぱ」を活用した、染め物「紫染ノ葉のコースター」が誕生し、UNIKARAに追いつけ追い越せで販売中です！

## 8. 活動は4年目に突入。そして、5期生の誕生

2023年5月。コドモノ明日研究所の活

動は4年目に入り、5期生も誕生しました。（新5年生）。

先輩たちの活躍を知る後輩たちは、ヒット商品、UNIKARAを追い越そうとやる気満々です。「北陸新幹線延伸」は大チャンスでもあり、課題だらけ（高浜町にとっては新幹線駅が遠いコトで、どこか人ごと）という難しいテーマに取り組もうと意気込んでいきます。（2023年6月現在）

「地域の課題」を「明日あったらいいな」というアイデアで解決の1歩目とする。そして、アイデアを形にする。そして、これを進めているのが小学生。この活動への共感が、新たな高濱明日研究所への入所者を増やし、関係人口を増やし続けています。ついに県外メンバー2名の高浜町移住も実現しました。

この活動は4年目に突入したばかり。しかし、すぐに結果を求めるのではなく、この小学生が大人になったときに、「高浜町に残る（戻る）のも一つの案だな」と思ってもらえます。そんな日のための種まき活動だと思っております。だから、私たち高濱明日研究所は、今日も明日も、背伸びはせずに、明日あったらいいなを積み上げて、2040年に高浜町が残っていられるように活動を続けていきます。

（高濱明日研究所共同代表 名里裕介）

## 6. 高浜から福井県そして全国、世界へと旅するUNIKARA

UNIKARA 2nd Generations の活動は新